

崦嵫漸移晷。恨恨辭高堂。屏營未上舟。執手芳洲傍。  
人如留歸客。我似還家鄉。願沿此春流。西溟俱遠航」  
と。

同じく卷三に「春日遊合輝亭。紀君輔彈琴賦贈」の一首がある。

「一晤空亭上。相知旧侶同。江花薰酒榼。嶽雪照綠桐  
逐臭幽蘭合。移情流水通。曲中無限量。举目送歸鴻」  
と。

しかし、この両首の成った年は明らかでないが、琴譜の序文の作られた天明三年の作とみられている。また、音律に関する書に、唐音歌笛譜一卷・南重操一卷・滄浪歌一卷「天明癸卯南愛膝裝撰」があって、同じく天明三年の作品で支那の歌行を唐音（中国語）によって節附された雅楽といわれている。なお、この作品が著書に明にされていないことからみると、『楽律考六卷』の中に録されていると推察する。

次号に続く

### 表紙解説

## 薩摩国分寺跡

鹿児島県川内市

### 三重塔層塔（三重部分の笠と相輪欠）

推定鎌倉期

天平十三年（七四一）日本六十四余州の国毎に建てられたお寺の一つで、いつ落慶したか年代は不明であるが、発掘された古瓦の文様型式から奈良時代後期であろうと推定されている。

此の三重層塔は南大門跡のすぐ右側に石造品の集めた所がある、その中に二基ぼつねん建っている、各層毎長方形に彫りくぼめられその中に仏菩薩が浮彫りされている、塔全体は傷みがひどく完全な層はないものの、大隅国分寺跡近くにある単人塚を小型にしたような塔で、各所に入念な鑿の跡が残されており造立当時はさぞ見事な塔であつてであろうと想像する。

塔高・現状約一米五十釐

写真並びに説明 軸丸 勇